

実技を交えて学ぶ急変対応勉強会

新入職者が学んだ救命の連鎖

意識がなく呼吸もしていない、こんな時にどう対応すればいいの…… 達生堂グループの全職員の学ぶ「急変対応勉強会」が6月7日、城西病院で開催されました。この勉強会は、職場やふだんの生活の中で心肺停止などの急変者が出た場合、どう対応すればいいのかわかることが目的で、「救急災害医療委員会（村田智史委員長）」主催で2回に分けて行われます。第1回の勉強会には23人が参加し、実技指導に結城消防署救命救急士5人が駆けつけ、JRRT（城西グループ急変対応チーム）7人も指導に当たりました。

勉強会は、JRRTが急変者を発見した時の対応を紹介。新人ナースが急変者を発見し、先輩ナースに連絡、応援を呼ぶとともに除細動器や救急カート運び込み、医師にも連絡し、救命処置を施すという一連の流れを演じた後、村田委員長がスライドを使って、CPA（心肺停止）の急変者を発見した時、反応の確認、通報、心肺蘇生（胸骨圧迫やAEDによる処置）など救命の対応を分かりやすく解説しました。

引き続き、実技ではCPAの人に「行わないといけな胸骨圧迫（心肺蘇生）とAEDの使い方を実習。4人1組になって、救命救急士やJRRTのメンバーの指導でダミーを使い、胸骨圧迫のやり方やAEDの安全な



取り扱い方法に真剣に取り組んでいました。

勉強会が終わり、参加者は「胸骨圧迫は大変でした」などと話し、「もし急変者が出た場合、1人で対応することは無理だと分かりました」との感想に、村田委員長は「1人では急変者に対応できない。CPAの場合、最低4人の人が必要だ。達生堂グループといういろんな職種の人がいる中で、チームとなって命を守ることが大切だ」と話していました。

2023年6月9日

